

令和2年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会

1 日時 令和2年7月22日(水)14:00～15:30

2 場所 市民交流プラザふくちやま 3階会議室視聴覚室
評価委員会委員及び福知山公立大学の一部教授は Zoom での参加

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員、大久保委員 (会場参加) 菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	岸本課長(途中入室)、井上係長、倉主事
福知山公立 大学	井口学長、矢口副学長、山本事務局長、山田教授、鄭教授 内田GM、荻野AM、神代 (リモート参加)岡本教授、倉田教授、倉本教授、井上教授、

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題(1)】 公立大学法人福知山公立大学 令和元年度及び中期目標評価 (4年終了時)に係る業務実績 評価について	事務局から【資料1】、【資料2-1】、【資料2-2】 により説明。
2	意見交換・質疑等	(主な意見) ■ 継続的な改善や業務の質を向上させることが目的で評価をしている以上、同じ基準で業務を見直す必要があるため、気持ちは分かるが、評価基準を中期目標期間中に変えるべきではないと考える。 ■ 地域の中で生きていく大学という中で地域との繋がり・連携などを積極的に取り組まれ、今年度開設された情報学部も地域に出ていくという新しい情報系の学部を作っていくというのは素晴らしい取り組みである。 ■ 福知山市が財務面のことも考えて一刻も早く新学部を設置する目標を法人に掲げ、それを受けて法人が努力された結果の1年前

		<p>倒しによる新学部設置という結果であれば大いに評価できるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ポートフォリオは学修成果を自己で振り返る重要なツールであると認識はしているが、学生が入力しても教員等がフィードバックをしないため学生が入力しなくなる事例もあり、ポートフォリオについて学位授与機構から有効活用を促すコメントもある。
--	--	--

5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 事務局説明 【資料1】、【資料2-1】、【資料2-2】により業務実績評価の進め方について説明。

(青山委員長)

委員の皆さんには、業務実績評価を行う上で感じたことや、注目した点などを教えていただきたい。

(委員)

- 開学以来、学長のリーダーシップによって教職員の皆さんがご努力されて、私学時代からのカリキュラムを見直し、1期生を卒業まで導かれ、情報学部という新しい学部創設にあたって、ご尽力されたことは心から敬意を表したい。
- 新しい大学できちんと学生の教育に取り組み、しっかり地域に根差すということをこれからも実施されていくと思うが、そのスタートについて高く評価したい。
- 今年度は4年終了時の中期目標評価を年度評価とともにやっていくが、正直なところ中期計画期間の途中で法人側が年度計画の評価方法を変えられたということは戸惑いを隠せない。
- これまでの3年間と今年度の評価を平均したものが出てくると思っていたので、その物差しが変わったということはあるつつも、業務実績報告書で実績の記載はいただいていたので冷静に評価を実施する必要があると思う。

(委員)

- 4年間で新しい学部を開学されたり、組織づくりに取り組んでこられたことについて、敬意を表したい。
- 業務実績報告書については、年々読みやすくなり、年度計画に対してどのような実績があったかが綺麗に書かれていたので分かりやすかった。
- 今年度は4年終了時の中期目標評価があり、単年度と長期の4年間を見る2つの視野が必要だった。
- 例えば、これまで年度計画ではずっと「3」がと評価してきても4年間で見ると「4」であるということがあったり、単年度では計画を達成していても長期で見ると達成できていないのではないかなど、整合性をどのように取るか迷った。
- 皆さんがご努力されていることは報告書から伝わってきた。

(委員)

- 大学をゼロから新設するというだけでも大変だが、福知山公立大学の場合は色々なマイナスからのスタートだった。
- マイナスから作り上げるというのは想像を絶する努力が必要だったことが想像できる。
- 4年前の業務実績報告書と見比べると改善を重ねてきたことが分かり、様々な点で合理化や整理が進んでいると推測できる。
- 評価について、今年度に基準を変えたということだが、基準自体は非常に合理性の高いもので、「上回る」もしくは「十分」は100%であるということは正しいと思う。
- 達成できたということは高評価であるべきで、いくつかの大学の評価基準の設定を調べてみたが、計画が達成できた場合、5段階の場合は「4」、4段階の場合は「3」をつける大学が多い。
- その点でも本来は「4」ではないかと思う項目があったと思うが、継続的な改善や業務の質を向上させることが目的で評価をしている以上、同じ基準で業務を見直す必要があるので、気持ちは分かるが、評価基準を中期目標期間中に変えるべきではないと考える。

(委員)

- 今年度から2学部となり、計画の中では大学院の開設も視野に入れている。
- あくまでも通過点であると思うが、非常に困難の中で努力をされてきたと思う。
- 評価をしている中でこれから先のことを考えていたが、来年度入試の情報学部2回目の入試志願者の推移を見守りたい。

- 各学部の魅力を最大限発揮していただき、志願者はもとより卒業生の評価が今後の行きたい大学に繋がっていく。
- 地元企業をはじめ、卒業生を採用された企業から福知山公立公立大学が今後企業にとって採用したい大学になっていくと嬉しいと思いながら評価をした。
- 評価方法も変わったとはいえ、基準をどこに置くのかが自分の中では悩んだところ。
- その中で色々な質問もさせていただきながら評価をした。

(委員)

- 地域の中で生きていく大学という中で地域との繋がり・連携などを積極的に取り組まれ、今年度開設された情報学部も地域に出ていくという新しい情報系の学部を作っていくというのは素晴らしい取り組みである。
- 評価委員会の中で一番問題だったのは大学の評価基準が今年度変えたということで、4年間の評価をするにあたって、どのような評価をすべきかを検討し、過去の評価委員会の評価結果に基づいて実施した。
- 我々の反省にもなったが、第1期中期目標期間中は同じ評価基準で実施できなかったかと感じている。

(3) 公立大学法人福知山公立大学令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務実績評価について

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

【資料2-1】及び【資料2-2】に基づき法人から質問事項への回答を説明。

(委員)

年度計画番号 69

- 年度計画に対する業務の実績の関連性がよく分からないので説明いただきたい。
- 自己点検評価委員会で認証評価の課題項目と2018年度評価委員会の課題項目が2019年度の執行見込み又は2020年度の年度計画に反映できているか確認した結果どうだったかということをお願いしたい。
- 9月末までに改善状況を把握するとあるが、実績としてはどれにあたるのか。
- 10月や2月までの対応などと記載されているが、それがどうなったのか読

み取ることができなかった。

⇒ (法人回答)

- 自己点検評価については半期ごとに見直している。前期に出ない場合は 後期の課題として取り組み、後期に出てきた課題や前期からの課題として残っているものは次年度に実施するようにしている。
- **年度計画番号 69**は、**中期計画番号 65**でも同じくどういう結果を改善したかということについて記載が不十分なので改めて説明する。
- 2017 年度に認証評価を受け、そこではいくつかの**年度計画番号 69**にも記載されている改善課題や努力課題については、体育館を除いて達成している。約 20 個の指摘事項についてこの 3 年間の間に改善している。
- たとえば PDCA サイクルについても 2019 年度に形にしてきた。
- 教員組織の点においても年齢構成のバランスや、実務家、外国人、男女のバランスなどを考慮した人事を実施する必要があったため、この問題を考慮しながら人員配置と組織の構成バランスを考えて実施している。
- 教育方法の問題においても 2 度のカリキュラムの見直しを実施した。特に 2 度目の 2019 年度の見直しでは情報学部が設置されるということで共通教育については文科省の基準に基づきシラバスを見直し、地域経営学部のシラバスの見直しも実施した。
- メディアセンターの蔵書数も当初 65,000 冊から 81,000 冊に増やし、さらに増刷していきたい。
- 今回の年度計画にも本来であれば記載すべきところかもしれないができなかった点も説明すると例えば、**年度計画番号 1、8、28**、**中期計画番号 1、5、15**に関連するところで 診療情報管理士の認定試験の合格者を中々出すことができなかったが
 - 2017 年度は 2 名が受験し、1 名が合格。
 - 2018 年度は 9 名が受験し、3 名が合格。
 - 2019 年度は 30 名が受験し、19 名が合格し、合格率 63.3%。
- そして特筆すべきは 3 年生が受験してかなり合格率を上げている点であり、3 年生は
 - 2018 年度は 8 名が受験して 3 名が合格
 - 2019 年度は 21 名が受験して 16 名が合格している。
- 医療福祉経営学科の記載が業務実績報告書では不足していたが、医療福祉経営学科についてもキャリア支援を行ってきた。
- 評価委員会で最終評価をいただくのは 8 月の下旬となるが、それを受けて担当部門が年度計画に反映できるものは反映し、後半期に実

施できるものもあれば、翌年度に改善するものもあって、その対応について10月・2月に確認している。課題対応として、HPに公表もしている。

- 指摘自体はたくさんいただいているので、課題の大きなものだけを公表しているが、指摘事項について内部的にはそれぞれ共有している。

(委員)

年度計画番号 82

- 新学部を設立して入学定員が200名となり、年度計画は達成されたことは分かるが、大学として入学定員200名を達成したことによって評価が「5」に至った経緯を書いてあるが、特筆すべき点をもう少し説明いただきたい。

⇒ (法人回答)

- 業務実績に関しては情報学部設置に向けた取り組みだけの記載となっているので、なぜ評価が「5」なのかと疑問があるのは当然だと思う。
- 元々福知山市が平成33年に新学部を想定していたが、財務面を考えて早めに設置することを「知の拠点」整備構想で計画をした。準備期間が短くなり、情報系の学部開設に向けて専門家がない状態の中で、異分野の学部開設に取り組み、1年前倒しで学部を開設できたので自己評価で「5」とした

(委員)

- 評価委員会の中でも議論があると思うが、「何かを達成するという目標に対して、達成したら終わりという目標」と「継続的に量をこなして業務を実施していく目標」の2つがあると思う。その2つの目標の評価方法をどのように実施するか難しいと感じている。
- 新学部を設立するという目標が早く達成されたということは非常に評価されるとみるべきではないか。

(委員)

- 新学部設置を1年前倒しにしたというのがポイントになる。
- その背景に福知山市が財務面のことも考えて一刻も早く新学部を設置する目標を法人に掲げ、それを受けて法人が努力された結果の1年前倒しによる新学部設置という結果であれば大いに評価できるのではないか。
- ただ、認可の遅れも受けて、情報学部1年目の実質競争倍率が低かったことを考えると早期に学部開設したことが準備不足に繋がったなど裏目に出た

面もある。

- 一般的には学部設置というものはとても大掛かりなものなので福知山公立大学の平成 28 年からの経緯をみたら非常に評価されるものではないかと思う。
- 年度計画と中期計画の整合について、過去の評価委員会において、新学部設置について法人から安定した財務体制をとるために 800 名～1000 名体制にすることは聞いていたが、情報学部については唐突に出てきた印象がある。
- 評価委員会の議題として取り扱うものではなかったが、なぜ設置を急いだのかという経緯が分かれば、議論がクリアになっていく

(委員)

年度計画番号 7、58

- 教学情報システムの機能として、修学カルテ（ポートフォリオ）について 2 年時に施行導入し、就職支援にも役立てられたということで自己評価「4」となっているが、就職支援のためか、アクティブラーニング推進のためかどちらの目的で導入されたのか。

⇒ (法人回答)

- 年度計画番号 7 については最終的に就職支援に役立てるようという大きな目的である。

(委員)

- 学生にとって、ポートフォリオを入力したらどのようなアクティビティが発生するのか。
- 電子システムで入れるポートフォリオだと思うが、オリエンテーション時に活用されているなど、学生は具体的に何をどう入力することになるのか。

⇒ (法人回答)

- ポートフォリオに関しては就職に繋がるようということで導入した。学生が知識や技能の各側面に関して自分の成長度を各 Semester で記入し、自分で振り返るとともに成長の道しるべとなる。究極的には就職等に役立てていこうということで 2 年生から導入した。これが難しい事業で中々導入に至らなかったという点もある。

(委員)

- 今年度は正式導入しているか。

⇒ (法人回答)

- 正式導入を目指していたが、コロナウイルス感染症の関係で前期は計画通りに進んでいないので、後期は計画通りに進めていこうと考

えている。対面でないと指導が難しい状況もある。

(委員)

- 学生自身が、福知山公立大学での4年間の学びを自分で目標設定をして、それを例えば半期や1年ごとに振り返るということで、授業単位など細かい単位で振り返りをされていないという理解で良いか。

⇒ (法人回答)

- その通り。

(委員)

- そうであれば、アクティブラーニングの項目に入れるのは無理があると感じる。
- 全国的に良いポートフォリオを導入している大学は多々あるが、結局は学生の入力率が低くて、ほとんど使い物になっていないという指摘がある。
- ポートフォリオは学修成果を自己で振り返る重要なツールであると認識はしているが、学生が入力しても教員等がフィードバックをしないため学生が入力しなくなる事例もあり、ポートフォリオについて学位授与機構から有効活用を促すコメントもある。
- 成果が芳しくないのであれば、自己評価「4」というのは厳しい。

⇒ (法人回答)

- 2年生に施行導入し、130名ほどの学生の内63名が入力している。実際に入力したものがどのようになっているのかと事務方で検討した。
- 入力内容の中で「振り返って調査能力が非常についた」、「現場の話の重要性を非常に認識できた」というコメントがあった。
- ポートフォリオの書き込みの重要性に関しては非常に強く感じているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、さらに進めようとしている現状になっていないが、今後は積極的に取り組んでいきたい。

(委員)

- 福知山公立大学の地域社会連携のいろんな事業が行われていて、それぞれの地域でのイベントにどれだけの学生が参加しているのかという質問事項に対して、【資料2-1】の「年度計画番号 34、46、48、49、62、64」で参加人数が分かった。
- 去年も質問してよく分からなかった部分だったが、今年は数字がきちんとできてきたということは学生さんが意識的に参加されたというふうに理解しても良いか？

⇒ (法人回答)

- 地域と関わることについて学生に対しても周知しているところで、それが学生の中にも浸透してきたという面はある。飛躍的な増大にはなっていないが意識的にはそのような形で教員も職員も対応しているが、もう少し周知が必要と思っている。

(青山委員長)

本日のヒアリング内容を踏まえて、評価委員会において評価書原案を7月27日(月)に作成し、7月28日(火)に法人に提示する。法人からの評価書原案への意見書は書面により8月3日(月)までに提出いただくものとする。

6 その他

特になし

7 閉会

以上